

平成25年 6月 27日

利用学習計画書

仙台市立八本松小学校

担当 第6学年 郡山 和彦

1 ねらい

縄文時代の自然環境や人々の生活、社会の様子について、身近な遺跡の見学や体験を通して関心をもち、調べる。

2 評価

縄文時代の人々のくらしや社会の様子について関心を持ち、理解を深めることができたか。

3 学習活動について

社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」

縄文時代の人々の生活や社会の様子を調べさせ、集落の様子や建物、当時の食料などを後の時代と比較させ、縄文時代の特徴を理解させる。

4 事前指導

- ・縄文時代の生活について、社会科の学習を通して指導し、確認しておく。
- ・当日の学習のねらいや流れについて説明し、活動内容を確認しておく。

5 当日の指導（活動）内容

（1）見学学習

復元住居・遺構表示等の野外展示及び館内の展示見学を予定
全体で館職員の説明を聞きながら学習〈探検シート利用の有〉

（2）体験学習

土器づくり、土笛づくり、勾玉づくりの3つに分かれて体験する。

6 当日の交通手段 市営バス

7 事後指導

縄文の森広場を見学、体験して分かったことを感想に書いて発表する。

平成25年 7月25日

利用学習報告書

仙台市立八本松小学校
担当 第6学年 郡山 和彦

1 事後指導について

(1) 実施日

平成25年 7月18日(木) 2校時

(2) 主な内容

- ・社会科の授業で、「探検ノート」の答え合わせと補助説明
- ・活動を振り返り感想を書く

2 送付する資料

(1) 児童生徒の学習後の感想(抜粋4点 4名分)

(2) 児童の活動中の写真(4点)

◎縄文時代の家は、なるほどと思える工夫があった。土に穴を掘って家をつくることで、夏はすずしく、冬は暖かくなるという工夫に私は感心した。また、土器作り体験では、縄文時代の人々がどんな作り方で土器を作っていたのかが分かった。粘土のようなものを細くして、それを積み重ね、模様をつけて焼くという作り方だった。どんな土器になったか、とても楽しみだ。……………どんな道具をどんなことに使われていたのか、どんな食べ物を食べていたのかなどなど、もっとたくさんのことを学んだ。今、私たちが生きている時代も、いつか大昔になるのだろう。これから生まれてくる人に、なるほどと思えるような工夫をしていきたい。(A子)

◎竪穴住居に入りました。入る前はせまくて全員は入れないんじゃないかと思いました。でも入ってみると、全員は入れてけっこう広かったです。そのまわりにも、別の竪穴住居などいろいろなものがありました。(B男)

◎私が縄文の森広場に行って感じたことは、「縄文人の知恵」だ。

まずは竪穴住居。くりの木で骨組みをして、屋根に土をのせたものだった。中は暗かったけれど、広くてすずしくて快適な所。こんなにいい環境を、頭を使ってつくれるなんて“さすが縄文人”と思った。

次は、土器。縄でいろいろ模様がつけられていて、なんだかきれいに見えた。家のまわりの跡を見ていたら、「埋設土器」なんてものがあり、何じゃこりゃ？と説明を見たら、なんと死んだ人を入れて、埋めるための土器だった。想像したら怖くなって、逃げた。でも、逃げながら縄文人っていったい何個ぐらい土器を使ってるんだ、と思った。縄文人は、頭を使って自分達で工夫して必死にくらしていたんだなあと思い、縄文人を前より尊敬するようになった。(C 子)

◎ぼくが、縄文の森広場で学んだことは二つあります。

一つ目は、昔の人の知恵です。昔の人は不便なことを考えて、便利にしていきました。特にすごいと思ったのは、家の構造です。通気性を良くして、夏の季節はすずしくなるようにしました。他にも、狩りの道具や魚とりの道具など、昔の人は頭がよくてすごいなあと思いました。

二つ目は、物を大切にする原点です。縄文人は、物を大切にしていたといわれていて、森などの環境を大切にし、食べものになるものはなんでも食べ、道具はこわれるまで大事に使いました。ぼくは、ものを大切にするので、心がとてもやさしい人が多いんだなあと思いました。

ぼくは、この二つの学んだことを今後に生かしていきたいです。(E 男)

